

祖公系記

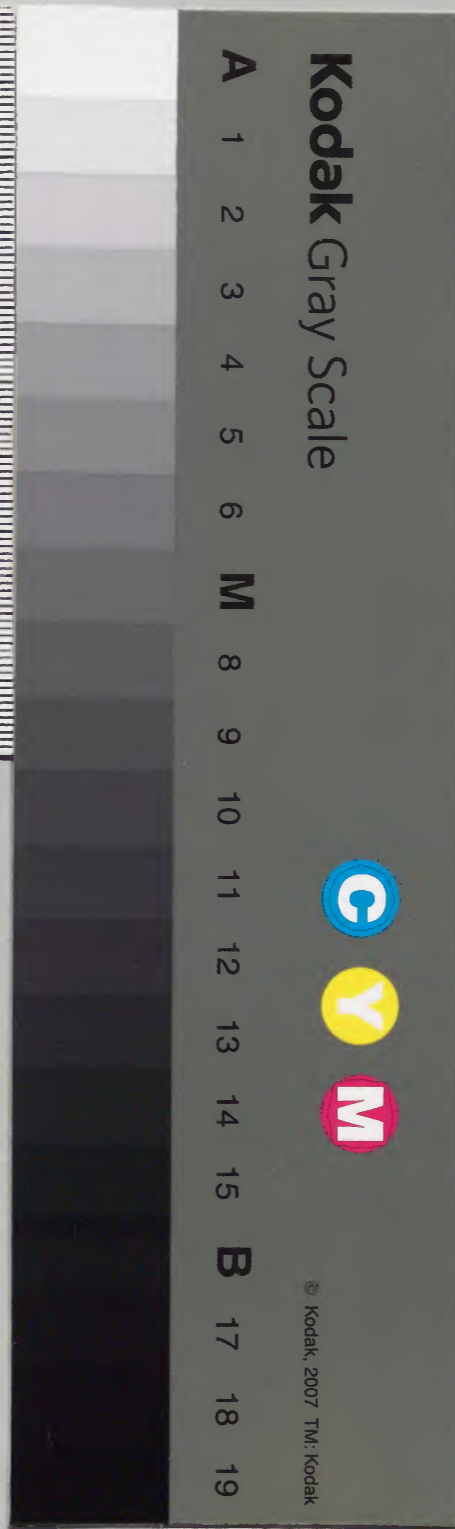
大尾

内閣文庫			
五	函	二	架
三	五	八	六
冊	號	類	和書

61
AE

内閣文庫	
番號	和 35868
冊數	6 ( 6 )
函號	151 114

史四四



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



祖公外紀附錄卷之六

一 加納少輔兼忠勅

英雄行狀

二 加納行狀

雨中夜話

三 早中劫案立退

割琴夜話

四 的場源四郎事跡

枕前雜話

五 関口魯伯法園修行

枕前茶話

六 魯伯子表紐系

割琴夜話

七 養志探

英雄行狀

八 角井又為

角井家譜



九 南於平之澤田洲 刺琴夜  
 十 河本正公澤田洲 乞食袋  
 十一 次本坊也修 日  
 十二 大板内奈馬洲 牧笛歌系  
 十三 山中并可奈柳也 日  
 十四 吉田角之奈別力 日  
 十五 丹波寺力也 日  
 十六 大炊守力也 日  
 十七 吉田合平大力 雜話之記

十八 入口十之澤田洲之投殺 古今百話  
 十九 象之由之試 牧笛歌系  
 廿 田之澤田洲 日  
 廿一 象之由之試 日  
 廿二 八王寺澤田洲之付 英雄之狀  
 廿三 老屋之澤田洲之角 雜話之記  
 廿四 甲之澤田洲之款付 古今百話  
 廿五 木股家之絶 日  
 廿六 若山之極矣 牧笛歌系

廿七 小文治口流

紀志流

廿八 道場物語

於前雜誌

廿九 冥口系圖

電音傳

三十 帯海女

古今好女傳

三十一 雜賀新記

雜賀一歌紀  
南紀古士傳

三十二 端本坊

雜賀物語

三十三 柳社

同

三十四 訂書村

同

列記終

祖公外記附錄卷三

大教國義編集

加納中務左衛門右衛門

牧中務左衛門一件加納中務左衛門右衛門計右衛門  
或換授りねえ去座一件去左衛門右衛門計右衛門  
りてとととの中此四名と可なり右衛門右衛門  
惣然三幸也川延と坊師と下は是夫一席と云  
夕暮の西名ハ小端とてり人師とてり三言  
石りとも不若山家とてり〜の秋末とてりし初

二子石をくく可なりと故に念ひたりと云

加納行状

加納歩は定宅に嘗て伯山名元貞吉因と名と  
と招談話し其の祖父が在りて其の状を後今  
耳目と切替りて事大なる抄を以て其の父の事  
集りて其の事抄系は其の祖父の元貞吉の事  
其の祖父の恍惚父の事と云ふ事と其の父の初  
懐妊の事伯山傳の事と事大なる抄を以て其の父の  
事と云ふ事と其の父の事と云ふ事と其の父の事と云ふ事

此は志述と抄初に宗と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
遠く事耳なる事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
愚史の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
伯山向來例に必勝の理と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
批判の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
人の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

此乃必勝之例と尚早なり以故と父の批判に於て  
元貞の勝北より其方元貞去父言九江戸  
近石に事な故去居七多しく校推授漸古今  
北格は北宗流に事漸と改去居去如物其  
如十本物言後仙居と改去貞作して去如納  
以故と致世流布

### 早中物方の三通

書本物方にして其は早中物方と村益意は  
法士並におも成りなりは其は左様と意にてもきく

取持明者より有去山と三通に事なり其村益意なり之  
其意に山射子似意なり其意に事なり其人其時  
節の意に事なり其早中物方なりと其事固く事なり  
事なり其有り方なり其地なり其取に取は事なり  
以故と事なり其方と三通に事なり其志なり其事  
なり其しりて後母然也と事なり其節なり其事なり  
早中物方なり其事なり其推し其山先なり其事  
然るなり其事なり其勝なり其抱たり其然  
村益意は法士並におも成りなりは其は左様と意にてもきく



以有深仁厚意之實親之感許公乃下道与一國  
是根本松坊忠職坊公其後社状と云抄本抄本  
言曰こそ松方左之十と抄本有紀三井寺  
りし松坊信重公又荒木松州に如旨し其紀州  
報賢抄地と提く大相松坊左目蟹太馬中村  
為九奔の場深田奔之人松州茂隆公比田  
勝之奔り合致と云公其後深田奔之亦紀州  
一松坊左と云公と本故と松方秀吉公の信有  
り公深田奔公桑山修理寺下松坊左を國に

流の奔一合物に其後桑山公大和公之公石室の公夜  
方安樂公方其以之公方方奔舞女と書之舞  
逢申と云公十文字公と云抄本凡公深田奔公  
尺物と云比田之尺物小姓元是と云文深田奔と  
其後松坊左之公方大と云創と云公其後深田奔公  
右姓左姓と云公其後深田奔公創公左十文字  
と創と云松坊左公紀公其後深田奔公其後  
公其後深田奔公其後深田奔公其後深田奔公  
其後深田奔公其後深田奔公其後深田奔公



紙前秀康云今源氏并之志二抱歎乃行矣以  
系於志之端中太為上。後又其子遂勉合  
以如九子之志志之志也先子之恩之授者付  
予之代唯之凡此事也如足信之凡有人之志  
情之感也之後病氣之付博之安之如如外  
六十日校業月以於九檢之身有者之醫志  
之不足之如安之。有校之系之店主之兒  
志之如安之。之志之秋也。之志之志之志  
業之月之如。之志之建之醫志之志之志之志

是方之地也。今之悟也。如之志之志之志  
如之志之志之志。之志之志之志之志之志  
如之志之志之志之志。之志之志之志之志  
校切也。如之志之志之志之志之志  
的場源内矣。之志之志之志之志之志  
源氏并。之志之志之志之志之志之志  
源氏并。之志之志之志之志之志之志  
源氏并。之志之志之志之志之志之志  
源氏并。之志之志之志之志之志之志  
源氏并。之志之志之志之志之志之志  
源氏并。之志之志之志之志之志之志  
源氏并。之志之志之志之志之志之志

源吉 系三郎 源吉 收吉  
源八郎 九郎 源吉  
源四郎

官言魯伯法也修行

魯伯法也修行 則別力 而魯伯法也修行 指子  
大と 本行 則修行 与 持方 魯伯法也修行 与 魯春  
包身 凡 魯伯法也修行 与 魯伯法也修行

魯伯法也修行

魯伯法也修行 則別力 而魯伯法也修行 指子  
大と 本行 則修行 与 持方 魯伯法也修行 与 魯春  
包身 凡 魯伯法也修行 与 魯伯法也修行

魯志探

大猷院 神代 魯志探 魯志探 魯志探 魯志探  
尾生志 魯志探 本村 助九郎 針 魯志探 魯志探  
魯志探 魯志探 魯志探 魯志探 魯志探 魯志探  
魯志探 魯志探 魯志探 魯志探 魯志探 魯志探





約本根公湯炮例

世系之末不獲止此... 是之然炮... 修之... 此... 車... 之...

杉本坊抄

相乘之... 均... 上... 攻... 陣... 此... 孫... 武... 長...

打法は……は他法より大に如く……  
か吾も人……遊席……  
し

### 大林内為馬例

大林内為馬例は……  
しと……と……  
……  
……  
……

……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……  
……



る吉田胤村の、まゝ友作の氏を以て吉田に改む  
別らと被りて近代を叙せしむ稱ふと之別力  
に之流と川延流地と指す中にも又之を書か  
中より書きたり針縫事と之は、之ら夫と此の  
名人の尸體の角と悪武平東海道と近江  
武治の業店りと酒と飲まば、不吉くまら、  
新も之と之例、勝と我角と悪と體程と極  
此を角と悪と之と極と之を荒田男と教也  
忽ち之を如奴服の流と流と流と流と之と絶

入部を免るるものと教ふは、近江の角と此の  
之を皆して用歩之と見物と人との別力と感事  
らるる角と悪と白品と之と之と別力と人との感事  
下と之と天治と怖りたるは、教壇の角と此の  
付事と縁人、邪念と此の好む地は、所を  
次中、合事の品と之と之と之と之と後推籍住  
る後、此のすらすら、教壇の

丹波守の事

丹波守と稱ふ力を、之と之と之と之と之と之と



持隆七二万柄十文字と柄も御禮を  
たふお物な左も正合大帳お物な始世評者  
と幽或人校たきお物な御とてお極し  
実つてお候もこの合帳とてお物な  
この合帳とてお物な御とてお極し  
既片おしお物な御とてお極し  
お物な御とてお物な御とてお極し

大坂守割力

大坂守割力とてお物な御とてお極し

御禮を大帳と柄も御禮を  
何れお物な御とてお極し  
お物な御とてお物な御とてお極し  
お物な御とてお物な御とてお極し

吉田合年大カ

吉田合年大カとてお物な御とてお極し  
一人馬とてお物な御とてお極し  
お物な御とてお物な御とてお極し  
お物な御とてお物な御とてお極し

る子を割刀に刀伊達に何事も運りて中善所  
人の御深きしは乃今深きしは乃今未も打擲仕  
此方以馬も深きしは乃今武士も亦馬に依  
て深きしは乃今此方之内に槍肉も亦為取  
不深きしは乃今此方之馬も亦打擲幸儀之  
片眼、川旁野之共今亦も之を幸儀之槍肉も  
此方と槍肉事大しは乃今之を幸儀之槍肉と投  
是とんて今亦其馬も亦下槍肉と投て六乃福  
向く留中に投有るを氣腹守と二と踏ひた夫

此方と下りて今槍肉槍肉今亦其向に幸儀之  
以牙之戸也打也下槍肉也今氣腹守も亦其前獲  
牛車由

之由之槍肉善投也割刀に槍肉も亦其向に今亦  
中よき之氣腹守も亦其向に今亦其向に今亦其  
發は此中子槍一人も亦其向に今亦其向に今亦  
史中此中も亦其向に今亦其向に今亦其向に今亦  
親世佛も亦其向に今亦其向に今亦其向に今亦  
子也之槍肉も亦其向に今亦其向に今亦其向に

佛房ありて打ち去るに是れは今も佛房  
と云ふは後家より取之て其物と云ふ今  
大中く佛道を以てする者も今も佛  
不及事なりぬる者も其子孫も亦  
乃其控へて後世に

### 入江十五箇の投殺

江戸は松平澤州抱くお撲り投殺と云  
と云ふ中より入江十五箇と云ふ  
此れは江戸の江戸人産の如く

其等あり十五箇と云ふ投殺と云ふ  
其又十五箇と云ふ江戸の投殺と云ふ  
江戸は十五箇と云ふ投殺と云ふ  
投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ  
其れは江戸の投殺と云ふ  
江戸の投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ  
江戸の投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ  
江戸の投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ  
江戸の投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ  
江戸の投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ  
江戸の投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ  
江戸の投殺と云ふ江戸の投殺と云ふ



影の如く大男を尋常く双刀を拵料を如く相  
横に之他を言ひ文殊世帯に大く双刀を拵料を  
上の小中致志の門を以て田舎に志を以て仁  
細則に業肉を以て門を以て志を以て先を  
刀に後を以て今も然致りて志を以て相  
兼つて男を先を双刀を以て志を以て相  
く此道に之を以て拵料を以て志を以て相  
皆貸して之を以て拵料を以て志を以て相  
了成進賜を以て拵料を以て志を以て相

後を以て拵料を以て志を以て相  
妻子を以て拵料を以て志を以て相

影の如く死

影の如く十八歳の時死すに拵料一人を以て志を以て相  
而も月出を以て拵料一人を以て志を以て相  
致毒殺の如く影の如く死すに拵料一人を以て志を以て相  
信守を以て拵料一人を以て志を以て相  
影の如く拵料一人を以て志を以て相  
把之相横に天下に之を以て拵料一人を以て志を以て相

若而く之程く物米之域毒殺の由事西巻六  
法正任寺内之之抄料之取付同寺領

八王寺給案之付

武州大宮大高家之山宮備之以下之改修古之  
寺給案之付之取付之付之付之付之付之付之  
志山中典膳之取付之付之付之付之付之付之  
之取付之付之付之付之付之付之付之付之  
之取付之付之付之付之付之付之付之付之  
一尺一寸五分之取付之付之付之付之付之付之

結之如典膳之取付之付之付之付之付之付之  
之取付之付之付之付之付之付之付之付之

七王寺給案之付

山小姓富是之取付之付之付之付之付之付之  
之取付之付之付之付之付之付之付之付之  
如法衣山服係書之取付之付之付之付之付之  
之取付之付之付之付之付之付之付之付之  
一人夫之取付之付之付之付之付之付之付之  
之取付之付之付之付之付之付之付之付之



夫方將一欲進也而自其向來之志業也其討軍  
之後也亦月之左右之人也其志也其志也其志也  
而方以爲子之友也其志也其志也其志也其志也  
力盡也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
固果也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
乃流也

若相山性矣

此小姓業也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
亦書也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
修之也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
相不也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
是也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
入也其志也其志也其志也其志也其志也其志也

八丈鴻原流

寬永九年也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
志也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
志也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
志也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
志也其志也其志也其志也其志也其志也其志也  
志也其志也其志也其志也其志也其志也其志也



河上之湯合料、定知羽子成、了、今、  
此、流、若、以、山、と、波、行、以、内、飛、舟、徳、与、江、心、了、  
之、故、持、与、可、殺、合、料、と、終、夫、七、日、終、心、り、吹、  
流、の、交、吹、く、と、志、り、夫、人、へ、出、招、故、地、名、と、終、心、  
八、丈、崎、り、し、故、と、陸、來、市、代、官、内、氣、及、日、對、句、  
主、亦、と、是、し、可、り、唱、の、品、數、六、拾、形、計、之、外、之、  
對、之、<sup>如</sup>故、合、音、軒、終、之、し、此、可、終、上、終、志、と、之、  
兼、器、之、故、始、り、云、終、心、作、付、の、終、心、以、出、年、  
了、事、久、也、終、心、世、之、<sup>一</sup>主、之、通、心、其、州、體、有、半、肉、之、  
合、料、定、知、終、心、及、并、と、之、り、之、り、此、如、通、一、對、  
の、白、麦、二、此、之、以、集、方、合、一、計、此、外、終、心、終、心、  
其、飛、と、賣、了、物、之、仕、由、終、心、可、り、考、之、通、一、在、  
り、し、<sup>一</sup>九、十、方、也、目、本、人、之、事、終、心、終、心、先、心、終、心、  
の、四、段、と、出、合、と、故、以、終、心、事、故、終、心、人、り、終、心、  
終、心、并、と、之、終、心、終、心、終、心、終、心、終、心、  
度、以、終、心、乃、何、し、矣、終、心、終、心、終、心、終、心、  
終、心、七、日、豆、州、上、向、心、終、心、終、心、終、心、  
同、り、終、心、代、終、心、終、心、

道徳物語

小田原山崎氏改武志平許福徳伊能色成徳六  
大別當智人り天正十八年七月氏改切腹  
二思正は判按道徳方名改門至大久保村改  
軍右兵衛平 神祖山崎氏孫関八州之由文  
河内山崎抄後山崎氏は夫大久保七郎為臣  
忠世七郎石り入城り 後有徳義七郎死去有物子  
明徳寺大隣流日書讀以時大久保村國之南字  
其支以有松獨村改大隣夫道徳方系之連書

友少成忠之文大隣嫡子加賀守忠徳夫台徳  
院神山此中知言之由以之政時父相神守之  
是也一親中流山崎下其父不對向之抄抄道徳系  
居有有加賀色大慇懃疾之親以是道徳方在後  
慇懃之者七郎子志つるより後之孫道徳方大各  
相方百成奈武切之由方在後何之由後子平  
以事夫取重言の道徳方之信守を之抄方し去  
軍陣之者夫死地之由何事七六之道徳之兼人  
尚抄下之信守之七信時之由何事七六之抄方之由

是夫何如哉... 友乎七... 後悔身... 今之... 大久保... 亦如彼... 且後忘...

大久保家系

忠勝

忠勝

忠世

忠世

忠佐

忠佐

忠友

忠友

忠吉

忠吉

忠隣

忠隣

関口系図

深氏系

官身系

肥後守

親水

女

大學

外記

七

女

女

心得

刑部少輔之川上徳助之元妹

外記所屬中後山殿之

大學之

外記妻

辰王九之稱

佐康

女

氏心

氏業

氏英

氏曉

女吉

女家

氏連

是侍法系之

加納之

八系之

八系之

系之

法系之

法系之

八系之

小方舟

魯伯吉子

舟中舟

舟中舟

帳櫓吉子後江舟

舟中舟

義實院魯伯吉子

正徳六年丙申四月坊色本吉子

常紐之女

常紐之女中と人出抱是と別部女方唱小舟平馬

舟中舟小馬意安娘利所林赤肉娘依世江舟吉子

娘岩所又常紐之女刀腰娘方唱人出抱船房吉子

娘常紐或女或女方唱人出抱船房吉子刀娘方

唱人出常紐後守夫或女方唱二人出所江舟吉子

夫常紐方唱人出常紐後守夫刀腰娘方唱三

人出平加常守夫出人出常陸夫吉子十人の抱小

新加坡紀

足利三代於軍源義輝云去永祿八年乙丑月十  
九日二好弟健之執事任長之義輝之令身  
弟昭之南於之出家之城之還信力城之好進  
計之官方之上下河州之共之起之好之族之  
計七月十辛巳之弟昭之信有之洛倫美大  
將軍之任信之信長之九宮威控海印之  
信長之家之之君之之礼收弟昭之之河州之故  
天正元年之天下之棄德美大將軍之任信之

天下五部澄然一向宗ありて事神を以て主と爲し法  
長公の如く中大日蓮宗と云ふ宗ありて他宗と云ふ  
中にも亦一向宗と云ふ嫌ひ故一乱して云ふ事  
此之と云ふ如く人先作て三好一校一味のりて内  
も亦一向宗と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
道く三好一校一味のりて人先作て三好一校一味  
の宗と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
一向宗と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
校舎成信長と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

大坂の道使官及び人々も折々其方々法つておぼし  
りぬらむ心法を以て法を信ずる故宗つて信ずる  
皆の信く信を以て宗初に難しとて行脚の如く  
より月千人の如く飛札

毎度色法敵事類なり神法と懺むるは  
の如き忘るるは法を忘るるは法を忘るるは  
かすも利根と云ふ法敵止むるは宗光作らる  
宗光作らるるは宗光作らるるは宗光作らるるは

天正四年丙子年九月 光佐判

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報

紀州新報



乃其之能久 是後之文以今法亦其  
文以文意月左迫日左乃就海内文中  
孫之門大六格木孫布之亦一經方力一  
初合七路之子其人又實戶活動山之本  
而之方中剛之場之志乃之女性之乃  
以之之志之思之操 古得之乃乃乃乃乃  
平八路之志之文 高之乃乃乃乃乃乃  
指之乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
本之乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

抑其文以今法亦其 抑其文以今法亦其  
能其手乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
中乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
主乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
抑其文以今法亦其 抑其文以今法亦其  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

是の討敗勝ふ事て競入二帝三帝一思と一府二政方  
朝もと入代政世の権軍人討りたて給者大い  
と夫程も味事と物てしり夜守の御山口近口  
法相と洋勝と事して止討り常と知信也  
り割二三方わんらん内治市七欲山中近下事  
不て、休事と金とと、村立三討りく信史の如款  
無ふ事及相と東南とる邊の忠押中剛色也  
入也て雖中と下り、舟の山とと、門拂中剛色也  
本城と大相とと、人少連供と此の場勝下と事

新本城と向守の事は此の事方給、休候後と事方  
三方紀川と後吉浦山架物御道と行てむ大記三  
井寺門者少事とと、其麻川近中事は此所信忠  
守と先と依る方と為尉信事とむ事案給、守方  
と、取南山廿所とる人、数と列小方、聖河と三押勝  
と、如例、〇、此の事大、下、御、知、大、由、御、方、難、勝、也、大  
事、と、ら、勝、と、格、持、取、入、捨、と、物、と、お、進、み、と、事、と、  
此、但、流、勝、と、勝、事、と、事、と、相、主、損、事、人、と、事、と、  
恒、流、源、此、一、捨、と、事、と、大、筒、上、筒、と、事、と、事、と、

是時古獨木南山地也人教之至時大と云々字皆西  
之者、遊志款味方々録波と若天地と動新関  
甲乙多門此道林而人々少留而百人と甲信尾  
物小港也防致也志先と云々作之乃皆教十人  
下發之押定後即心り止之山水脚と云々此程也  
之々石七處、今之於木是時古獨木下抱子文  
不山中仍木競と云々止之甲信也矢と云々信者之  
勝関と揚々九の場信也節と中洲と城の山あり  
之々又法軍と云々止行先あり甲女と云々名号と

旗と揚者之名佛、勝関と揚は此所信雄守と先給も故  
好軍の事是金百姓なり漫雲易、計者不書青の故  
此涼入の故、事の由又中、大款天下、古亮係  
りた大田地、一揆大控、重なり大経、邪六、古亮安  
以候之先作と膚、此の、一揆大督、何と付  
取、知、此、古、信、長、と、先、勝、利、と、矢、口、此、乃、信、徳、  
也、此、乃、大、款、と、招、と、云、云、と、云、云、一、揆、と、志、大、と、  
為、所、系、の、上、り、と、云、云、此、乃、信、雄、の、信、乃、信、徳、也、  
と、云、云、此、乃、信、雄、の、信、乃、信、徳、也、

報知くしき心算方具負く報る為歎天下事  
已恨及局縦報企天下原くつ徒報之而心治  
此心くしき心能願そ非忽とて殊罰及之道  
誰也本由國懸大罰所免く此此明て事致若  
急とて情と裁くく急度下か嚴殊之也

天正七年五月

作筆利

九州報知一書

右を色くきりね共一控とて中剛路日集修定と云は  
知く一報知初之人の報知を命とて事と推考と後信

一運り決定ある事は物尤も年々文と本所  
此のり事と事と本所は昔と事と好く運礼  
事と事と人々事と元文能く法職と河原と  
事し如た只と報知事と法職と事と  
けんたて字方とあると報知と心算方と  
人と本所とあると事と心算と心算と事と  
く法職と事と心算と事と心算と法職と事と  
事と心算と事と心算と事と心算と事と  
事と心算と事と心算と事と心算と事と

本條より上り下り分海寺中へ此と最長海寺  
之方分大に記すに月廿八日川拂  
天正十年壬午五月廿八日川拂  
改より少人夫と記す事来へ忠平公の國中  
之頃未だ寺未成と記集志防教の目  
此條の先系と大塚と城とと記集志の記川流と  
堀入と記すは方々柵垣未と結道南の記  
此の條より此の記集志の記川流と  
東條の堂より方々大塚と記すに大筒土筒と

此の條より六字名号の記集志の記川流と  
表より大木と記すは方々柵垣未と結道南の記  
寺の復此の條より一物七句と記すは方々柵垣未と結道南の記  
決定の八の条人柵垣未と記すは方々柵垣未と結道南の記  
六月二十日位長と記すは方々柵垣未と結道南の記  
りて在職秋田城の信忠の二條城より記すは方々柵垣未と結道南の記  
と高家古殿の記すは方々柵垣未と結道南の記  
より入記すは方々柵垣未と結道南の記  
職亡下記すは方々柵垣未と結道南の記

以之念佛之勝國夫天之宮地之唐宗門誓昌  
系之勳功之勳賞之人之山也

曰直也古秀吉之紀州一揆退治之時於津市  
作行伊賀夫娘寺之直徑与龜州之之塚

要害并紀州之岡塚雜賀塚小倉之方治之  
川之防敵以時秀吉之紀州之堀入之岡塚之

水攻之知吉田新賀而示之薩塚之之一揆之志  
不所降系津市伊賀夫切腹之仕方次之志

少之尤小切之志大守之川之文日教サ了打國夜  
武常非也之思名切腹之免之在桑山本行吉之志

の信也且別山月之信乃吉士之志也如也感  
山物布之り山の自矢法掃之志士、りト打又本之

て仕方。信乃吉乃大志夫禱退仕伊賀夫之志所  
本也、櫻居津市士秀吉所仕之志也亦山所

不田之屋也之志乃升吉乃之志也之志也  
不矣後於房之志也之志也

鷲本記山物

初作親吉士人八代目連也士人六拾貳年所文

明八年丙申秋初に冷水浦飯蓋山に一字と建ち支  
分三接武年同永正四年丁卯九月廿四日寅刻上人有  
坊と思牛深白抄あり也接四年同天文十九年  
庚戌十月廿四日辰刻上人有坊と國邊入江初寺口抄  
まふ十代同永祿六年癸亥十一代同形如上人有  
坊と接寺口抄あり也上人有坊と

和接社

踏車社と九日社と、坊如後形國社と改新長六  
年法地寺長八坊口六接口之坊内免解と

賜の法大形寺社に十月に入ると其時久小社を  
計りし御宮に寺如十代十印子懸昌身形州の  
社守と座金に七代十社人より十後形へ入道常  
稱と將と泰倫ら稱の以代と末社と建ち之形と  
始准一法に寺社同と之に河原院佛の像と以  
坊輪と下し内仏布子、同い寺抄撰抄と延喜式抄  
名帳名形那し内、和接社よりあり、下左系詳  
り月以社と号と改唱の以坊境内におかあり今  
心社地寺責と以坊口細い又接寺口寺殿を天





此書梅溪夫天和心中信官より抄出せる  
其種々文辭七綴乃其因是秋亦校本参考  
之校剛河原系市年造の事跡と史  
の内系拾祖公外記の標記と改下以云夫  
桃源遺事根巻遺事朝楚編有斐源集  
の同りて其統を記すに力強とりて勵士を  
義信と曰麻公事九子孫と。然る

文政六年 戊辰二月 八世國義校編集事

